

理事長就任のごあいさつ

これまで専務理事として法人運営に携わってきましたが、平成29年6月13日の理事会におきまして、理事長に就任いたしました。社会福祉法人制度の改革が叫ばれているこの時期に、その職責の重さをひしひしと感じております。



戦災の傷跡がそこここに残る昭和21年10月、私どもの事業は始まりました。とは申せ、焼け残った創設者宅での鍼灸共同治療所及び生活の場の開設がありました。障害者が一人集い、また一人と、互いに生きることのみに必死の毎日でありました。社会福祉事業法（いまの社会福祉法）ができる以前のことで、福祉事業になろうとは誰もが思いもよりませんでした。

70年後の今日、名古屋市内を中心に7つの拠点において、高齢者、障害者等2,500名以上の方々へ、介護・福祉サービスを提供するまでになりました。名古屋市を始め関係諸団体、各種公益法人等のご支援のお陰であり、皆様に只々感謝であります。

昨年、「“ひとりの幸せのために” ～挑戦！創造！貢献！～」を統一テーマに、創立70周年記念事業を行いました。“ひとりの幸せのために”とは創設者が職員に残した言葉であります。「40年間多くの利用者に対し、精一杯尽くしてきたつもりであるが、本当に救えたと思うのはほんの僅かである。謙虚な気持ちで、目の前にいる一人の幸せのために、全力を尽くせ」ということであります。

福祉業界への多様な事業者の参入、少子高齢化、人口減少が進む中で、法人全体の舵取りはこれまで以上に高度化、複雑化しています。加えて、社会福祉法人に対し様々な改革が求められています。これらのことに真摯に対応していくことは無論、支援を必要とする人のセーフティネットとしての役割をどこまでも果たしていかなければなりません。

今後とも皆様のご期待に添うべく、誠心誠意努力してまいります所存です。変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

理事長 近藤 正臣

専務理事あいさつ

専務理事 山下 文明



この度、専務理事という重責を拝命いたしました。

前専務理事の近藤理事長が長年にわたり果たされてきた大きな役割と実績の前に、身も竦む思いです。

私は、名古屋ライトハウスに入職して36年になり、71年目を迎えている名古屋ライトハウスのほぼ半分にかかわったことになります。

名古屋ライトハウスは、創設以来、『ひとりの幸せのために』を合言葉に、盲人職業開拓と高工賃の達成、住まいの場の安定的な確保、名古屋市唯一の盲養護老人ホーム、重度の身体障害者授産施設など、常にチャレンジ精神と自主自立の気概を持って事業を推進してきました。社会福祉法人を取り巻く環境は大変厳しくなっており、社会が求めるものや地域が期待するもののハードルは高まる一方ですが、名古屋ライトハウスの伝統と精神を忘れずにこれらに充分に応えていかねばなりません。

新体制となり、業務執行理事として財政面、人材面を担当する事となりました。まだまだ未熟者ではありますが、みなさまのご指導とご支援を賜り、万里一空、努力し邁進していきます。

常務理事あいさつ

常務理事 野々下 哲也



この度、このような大役を仰せつかるには誠に微力でございますが諸先輩方ならびに利用者、職員の皆様のご助言、ご協力を仰ぎ名古屋ライトハウスの発展に全力を尽くす所存であります。

就任直後、近藤理事長から頂戴した言葉が「不撓不屈の精神」でありました。歴史を継承しつつ、「ひとりの幸せのために」を守っていくこと、強い意志をもって、どんな苦労や困難にもくじけないでほしいという叱咤激励だと受け止めております。

法、制度、政治・・・、何が起こるか、どう変化していくのか分からないこのご時世、水戸黄門の「あゝ人生に涙あり」の二番の歌詞が今後の応援歌のような気がしております。「人生勇気が必要だ くじけりゃ誰かが先に行く あとから来たのに追い越され 泣くのがいやなら さあ歩け」

福祉業界では新規参入が緩和され自分自身がライバルだという時代は終わり、まさに後を追ってくるライバル達にどう立ち向かって行くのか。

関係者皆様の後押しにお応えできるよう精一杯、努めていきたいと思っております。益々のご指導とご鞭撻を心より御願ひ申し上げます。

● 法人役員など ●

● 役 員

理 事 長	近 藤 正 臣	専務理事	山 下 文 明
常務理事	野々下哲也	理 事	原 田 良 實
理 事	高 木 正	理 事	山 本 保
理 事	宮 崎 潔	理 事	鈴木加代子
監 事	木 村 剛	監 事	堤 忠 章

● 評 議 員

池田和佳子	稲 垣 晋 正
井之口純子	江 場 哲 哉
神 田 正 美	寺 田 浩
丹羽 徳 男	橋 井 正 喜
松岡 克 巳	三 宅 宣 昭

● 会 長 本 間 英 典

● 相 談 役 服 部 正 夫

● 拠点より ●



光和寮 豊嶋良幸

光和寮では基幹事業である就労継続B型事業の進化が必要になっています。利用者の障害特性やニーズなどの多様化が進んでいるため、既存の仕組みだけでは充分ではありません。

法人の指針「ひとりの幸せのために」を考えると、ともすれば「利用者のために」と、「支援者の立場で」ものごとを考えてしまいます。しかし、我々が本質的に考えなければならないのは、「利用者の立場で」ものごとを考えること
のはずです。今年度はこの「利用者の立場で」をキーワードにして、課題の解決に当たります。



明和寮 仁藤千春

私は入職して27年になりますが、人が好きで人の可能性を信じたくて、人に関わるこの福祉の仕事を始めました。いろんなことがありますが、互いの良い所も悪い所も言い合える風通しのいい施設にしていきたいと思っています。今年から人権委員会や働く向上委員会、福祉ホームのあり方検討委員会、広報チームなど立ち上げ、皆で考え行動できる組織運営を心がけています。みんなちがってみんないい。互いの違いを理解し合える皆の優しさや笑顔にあふれ、夢や希望が一つでも叶う活力ある明和寮を築いていく責任と覚悟をもって日々の職員育成に取り組んでまいります。



緑風 小澤泰治

今年度は「あなたらしい働き方」や「高い工賃を目指す働き方」ができる支援体制、生産体制を構築するため、職員全体で検討を進めていきます。

また、平成30年度に予定している新棟建設（平成31年4月開設予定）に向けて既存棟も含めた具体的プランの作成も最優先事項と位置づけ、建物の目的に応じたレイアウトや職員配置、作業内容の検討、2つの建物によるサービス提供の方法などを利用者目線で考えると共にサービスを提供する職員の働きやすさも考え、また、地域共生社会の考え方も含めた施設づくりを検討していきます。



港ワークキャンパス **野々下 哲也**

「新風」

常に施設の長として情けなく思うことは、利用者・職員の頑張りが報われない形となって表れた時である。とにかく無能な自分を責め二度とこんな思いをさせたくないという気持ちで一杯になる。今年度は、「ならば」という意味も含め先見性ある「新風」を施設内に吹き込み、その新風によって利用者・職員間の絆がより深まっていくという事業展開を進めて行きたい。具体的には、パン

缶新工場の設立、健康促進に繋がる斬新的な事業展開の模索、そして明和寮との「把手共行」。課題は山積みだが夢や希望も課題に負けないくらい山積みでもある。



名古屋盲人情報文化センター **家崎 哲郎**

当センターでは利用者ニーズを考え、図書館事業・サービス事業・点字出版事業のより一層のサービスの充実を図っていきます。

視覚障害当事者・支援者を含めどなたでも来館しやすい、利用しやすい環境づくりを進めていきます。そのためにも施設職員のスキルアップや意識向上に力を入れ、明るく開けた施設を目指します。

また、当事者団体・リハセンや盲学校などの他施設・医療関係との連携を深めていくことはもちろん、見学会や研修会を通して積極的により良い情報の提供に努めていきます。



戸田川グリーンヴィレッジ **伊藤 桂子**

様々な課題により迅速な対応ができるよう職員の育成を行いながら組織強化に取り組み、同時に働きやすい職場環境を目指し介護負担軽減や職員のメンタルヘルス支援を目的とした「支え合えるチーム作り」を目指した取り組みを進めていきます。また、利用者の安心・安全に向けた感染症対策、防犯対策、防災対策等のリスクマネジメント強化を重点課題とし対策の推進を図ります。地域活動

をより活発に進めていくため「地域活動推進プロジェクトチーム」を組織し、地域の関係機関と連携しニーズ把握を行い具体的な活動に繋げる取り組みを進めていきます。



瀬古第一マザー園 **近藤 健弘**



瀬古第二マザー園 **村井 昭文**

「生活の中で『喜び』を感じていただくことを追求する」「経営の安定と未来への備え」を拠点テーマとして掲げ、そのために「組織のコミュニケーション力、チーム力を高める」ための取り組みや仕組みづくりを行います。

今年の4月に園長、副園長共に新たに就任させていただきました。先輩方が積み上げてきたものを大切にしながらも、過去にとらわれすぎず、必要な変化、発展を目指します。利用される方々が笑顔になることはもちろん、職員も喜びを持って働くことができる施設づくり、職場づくりをしていきます。

発行責任者：社会福祉法人 名古屋ライトハウス 理事長 近藤 正臣

〒466-0855 名古屋市昭和区川名本町1-2 TEL 052-757-3522 FAX 052-757-3533